◇まえがき◇

機器分析センターこの一年

機器分析センター長　飯石一明

機器分析センターが設置されて，２年が経過しました。理学部に間借りした状態は”残念ながら”変わっていませんが，運営委員会や機器運用部会の皆さんの御支援と利用者の皆さんの御協力のもと，試行錯誤を重ねながら，充実したセンターになるよう努力しています。この一年を振り返り機器分析センター報告第２号をお届けします。

４月には利用登録申請書の受付を行いました。大型装置としては，電子プローブマイクロアナライザ，単結晶自動解析装置，電子顕微鏡，蛍光Ｘ線分析装置等がありますが，利用登録者を拝見しますと，理学部の教官，院生，学生が非常に多いように思われます。理学部に間借りしていることが大きな要因と思え，この点におきましても出来るだけ早期に建物新営の概算が認められることを切望しています。

５月31日には建物新営の概算要求のための学長ヒアリングがありました。センター報告第１号に全国における機器分析センターの設置状況や建物の完成状況をお知らせし，昭和６０年以降建物新営の概算が認められていないと報告しましたが，平成４年に長い中断をはさんで名古屋工業大学の計測分析センターの建物が完成しました。まだ建物新営が認められていないセンターが数大学あり楽観を許しませんが，山口大学の場合，同じような教育研究施設である地域共同研究開発センターの建物が本年６月頃に完成しますので，「次は機器分析センターの番」と非常に期待をしているところです。

７月には運営委員会等において，平成５年度の予算や広報活動について審議をお願いしました。昨年は発足の年でもあり，附属施設経費がかなり少なく緊縮財政でした。その点，２年目に当たります本年度は，昨年度に比べ附属施設経費が倍増しましたので，多少は利用者の皆さんに喜んでいただけたのではないかと思っています。

10月には管理委員会において，平成４年度事業報告及び決算報告，平成５年度事業計画及び予算案等について審議されました。その際，「建物についてはどうなっているのか」との質問を戴きました。全学的に強く要望されている事柄であるとの認識を新たにし，なんとしても早い時期に建物新営の概算要求が認められるよう，運営や実績作りに努力しなければならないと感じた次第です。

昨年度は，理学部から要求していた特別設備の“電子プローブマイクロアナライザ（9000万円）”が認められたことを報告いたしましたが，本年度も理学部から要求していました特別設備の”動的構造解析装置（9520万円）”が認められました。本報告書の表紙には，この装置のイメージングプレートを用いて得られた蛋白結晶の回折パターンを示しています。導入責任者の山本惺史教授（理学部物理）に装置の特徴や性能等について概説して戴きました。また，増山博行教授（理学部物理）にはセンター設置機器のLCR，誘電測定機器，DSCについて概要と測定例を紹介して戴いています。これらの記事を参考にしてセンター設置の機器で研究して戴き，センターの利用を契機にして多数の共同研究が生まれることを強く希望しています。

前述しましたように，２年連続して，特別設備費で購入された装置がセンターに設置されましたが，本センターに設置することを前提にして要求されている大型機器は，特別設備要求として生体高分子構造解析装置ARX500Y型（化学関係）や細胞構造解析装置（生物関係），一般設備要求としてオフセンター型極低温４軸回折装置（物理関係）や電子顕微鏡（生物関係），大学院最先端設備費として分析電顕（地鉱・生物関係），科研費要求で質量分析装置（化学関係）や蛍光Ｘ線分析装置（地鉱関係）等々沢山あります。これらの装置が順調に導入されることを祈るとともに，入れ物であるセンターの建物新営の概算要求が一刻も早く認められることを強く望んでいます。そのためにはセンターの努力が必要であることは言を待ちませんが，利用者の皆さま方の御協力も是非必要と考えています。どうぞよろしくお願い致します。